

## 2021 年度大学入学共通テスト(日本史 B・世界史 B)の検討

—— 思考力・判断力を評価することに成功しているか？

### I. はじめに

本稿では、拙著『入試問題の作り方— 思考力・判断力・表現力を評価するために』(幻冬舎, 2020 年 12 月)の第 1 部の入試問題作成マニュアルに基づいて、2021 年 1 月 16 日に実施された大学入学共通テスト(以下, 共通テスト)の日本史 B と世界史 B について、思考力や判断力を評価する問題として妥当かどうかという視点から検討する。その理由は以下のとおりである。

周知のように、共通テストは文部科学省(以下, 文科省)の高大接続改革において重要な位置づけを与えられている。高大接続改革の理念は、大学入試センター試験(以下, センター試験)を「学力の 3 要素」(1. 知識・技能, 2. 思考力・判断力・表現力, 3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)を重視する共通テストに改革し、各大学独自の入試も同様の方向に改革させることによって、高校教育を「学力の 3 要素」を育てる方向に誘導し、さらに大学教育も同方向に改革させようとするものである。

こうした改革が必要とされるのは、センター試験や従来の大学入試問題が「知識偏重」となっているという認識、特に歴史科目については、高校生に「重箱の隅を楊枝でつつく」ような、細かい歴史的事実(以下, 史実)の暗記を強いるものになっているという認識があるからであろう。すべての大学の歴史科目の入試問題が、「細かい史実の暗記」のみを強いるものであるとは言えないが、そうした傾向がみられることは否定できない。共通テストを含めて大学の入試問題が「学力の 3 要素」を重視するものに改革されれば、高校教育もそのような方向に誘導されるだろうという考え方には一理ある。問題はこの改革の理念を入試問題としてどのように具体化するかである。

慶應義塾大学経済学部(以下, 経済学部)は、1990 年代初めに高大接続改革と同様の理念を掲げた入試改革を開始した。私は経済学部にて在職中、一般入試の歴史科目(世界史と日本史)の出題を長年にわたって担当し、この改革の理念を具体化するために、史実の暗記力ではなく、歴史についての理解力・思考力・分析力・判断力・表現力等を必要とする入試問題を作成する努力をしてきた。その結果、経済学部の歴史科目の入試問題は、大手予備校から「入試問題のあるべき形の具体的な姿をみせてくれる珠玉の問題」と高い評価を受けるようになった。

共通テストが高大接続改革の理念を実現する手段として位置づけられ、各大学独自の入

試も同様の方向への改革が求められているのだから、各大学の入試問題作成者も対応が必要となるし、受験生や高校教育もそうした入試改革に対応することが必要となる。私の出題経験をマニュアル化し、そうした対応の一助してもらおうと思ったのが拙著執筆の動機である。つまり、拙著第 1 部の入試問題作成マニュアルとは、高大接続改革と同様の理念を入試問題として具体化するためのノウハウの集大成なのである\*。

\*高大接続改革の理念、経済学部の入試改革など、拙著執筆の動機や内容の特徴について、より詳しくは拙著の「はじめに」を参照していただきたい。

拙著の第 2 部では、2017 年と 2018 年に実施された共通テストのための「試行調査」(プレテスト)での日本史 B と世界史 B の問題を、第 1 部の入試問題作成マニュアルに基づいて検討した。各大学の入試担当者や受験生・高校教師が高大接続改革に対応しようとするれば、思考力等を問う入試問題とはどのような問題なのかを考える必要がある。その際にはプレテストをもっとも重要な参考資料にすると思われるからである。

プレテストが思考力等を問うために適切な問題であれば、各大学の入試問題や受験生の学習、高校教育は、共通テスト実施前に高大接続改革の理念に沿う方向に変化することになる。しかし、プレテストの問題がそのようなものでなかった場合、大学入試や高校教育に混乱をもたらすことが危惧される。私がプレテストの問題を詳細に検討した結果、残念ながら、この危惧が現実化する可能性が高いと判断した。大学入試や高校教育の混乱を避けるためには、プレテストの検討結果を公表し、受験関係者の参考にしてもらいたいと考えたのが、拙著第 2 部でプレテストを取り上げた理由である。

上述のような理由で拙著を刊行した以上、2021 年 1 月に実施された共通テストが思考力等を問うことに成功しているかを検討し、その結果を公表するのは私の義務ともいえるだろう。以下、2 回のプレテストの問題点が共通テストでは解消され、思考力等を問う問題として適切なものになっているかどうかを、両者を比較しながら検討していく。必要に応じて、センター試験との比較についても言及する。

## Ⅱ. 共通テストは高大接続改革の理念を入試問題として具体化できたか？

拙著でプレテストの問題点として挙げたのは、(1) 問題の分量、(2) 問題構成、(3) アクティブ・ラーニング(AL)の設定、(4) 入試問題としての妥当性、(5) 歴史における思考力・判断力とは？、(6) 入試問題のあるべき姿を具体化するために、である。以下は、これらの問題点別に共通テストの問題を検討した結果である。

**(1) 問題の分量**

日本史 B(以下, J)は約 1 万 4000 字, 世界史 B(以下, W)は約 1 万 5000 字である(PDF ファイルをテキストに変換し, MS Word にコピー&ペーストして字数を計算)。センター試験やプレテストと同程度の字数であり, 図版やグラフも提示されている。試験時間 60 分で, 受験生の思考力・判断力を評価しようとする問題としては多すぎる分量である。

**(2) 問題構成**

問題構成は, 基本的にセンター試験やプレテストと同様に, 大問, 中間, 小問という 3 段階の設問となっている。各大問には歴史的関連性のない 2~3 の中間があり, 中間には 1~4 の小問がある。中間が一般的な大学の入試問題の大問にあたるのもセンター試験等と同じである。問題構成表を次ページ以降に掲げておく。

「出題形式」と「解答に要求される能力」は私の解釈, 「正答率」は Z 会発表の数値, 「評価」は私の判断による難易度, 「良」は良問, 「悪」は悪問, 「疑」は出題内容に疑問がある設問である。設問番号がイタリック体になっているのは, アクティブ・ラーニングが設定された問題である。

第 1-J 表を見れば明らかなように, J の全設問中の 2/3 が史実や年代の暗記のみを問う問題である。特徴的なのは, 出題者の意図が思考力等を問うことと思われる設問の多くが, リード文や会話文, 資料, 選択肢の文を読解する力があれば, 史実の知識や理解を必要とせずに正解に到達できる問題となっていることである。

出題者または入試センターは, 受験生の思考力等を評価する入試問題とは, 読解力を問う問題と考えているのだろうか。たしかに文意を正確に読み取るためには思考力を必要とするが, これは歴史における思考力等ではなく, 現代文や古文を読解する力を評価する問題, すなわち国語の問題ではないか。

第 1-W 表を見ると, W では史実や年代の暗記のみを問う問題が全設問中 85%を占めている。しかも, その 1/3 強が, 国・地域や時代もかけ離れた断片的史実や年代の正誤を問う問題となっている。また, 出題者の意図が思考力等を問うことと思われる設問は, 資料やグラフの読解力と暗記力によって解答できる問題で, 実際に思考力等を必要とする問題はゼロである。

第1-J表 共通テスト日本史Bの問題構成

大問	中間	小問	小問テーマ	出題形式	設問の要求する能力	正解	正答率	評価
1			貨幣の歴史	博物館での学習				
	A		古代～中世の通貨発行と経済	生徒のメモと会話文				
		問1	古代の銭貨政策	正文選択(組合せ)	選択肢の読解	4	78.6	易
			X 国家の銭貨発行の独占					
			Y 銭貨による財政支出					
			a 運脚への銭貨使用命令					
			b 私的銭貨鑄造禁止					
			c 銭貨貯蓄による昇進					
			d 禄の支給					
		問2	鎌倉時代の銭貨流通	正文選択(組合せ)	図版と選択肢の読解	2	87.2	易
			a 銭貨の流通の一般化					
			b 銭貨鑄造停止					
			c 図版の建物は瓦葺き建築					
			d 銭貨以外の貨幣流通					
		問3	中世の流通・経済	正誤判断(組合せ)	史実の暗記	1	65.8	易
			X 室町幕府の撰銭令					
			Y 細川氏と大内氏の寧波の乱					
	B		近世～近代の貨幣制度	生徒の会話文				
		問4	小判の重量と成分比の変化の背景	誤文選択	図の読解と史実の暗記	4	88.9	標準
			① 正徳小判は慶長小判と同比率					
			② 金の成分比率は50%超					
			③ 文政以降の小判<元文<正徳					
			④ 開国後に小判の成分比率を下げた					
		問5	明治期の金本位制確立過程	並べ替え	時系列の理解	5	57.3	疑
			I 銀本位制確立					
			II 賠償金による金本位制確立					
			III 戦費調達のための不換紙幣乱発					
		問6	中世から現代までの貨幣史	正文選択(組合せ)	史実と年代の暗記	3	65.8	悪
			a 中世は私鑄銭は不使用					
			b 近世は寛永通宝が大量流通					
			c 金融緊急措置令で旧円の流通禁止					
			d 1947年時に1ドル=360円の単一レート					
2			文字使用の歴史					
	A		古代の日中交流	生徒の発表要旨				
		問1	1～5世紀の中国王朝の領域	地図の並べ替え	史実の暗記	5	50.4	難
			I 3カ国					
			II 南北2カ国					
			III 1カ国					
		問2	江田船山古墳出土鉄刀の銘文	正誤判断(組合せ)	史料の読解と年代暗記	1	87.2	疑
			X 漢字の音による人名表記					
			Y 江田船山と稲荷山古墳の知識					
	B		古代の文字使用	生徒の発表要旨				
		問3	7世紀後半の日本の文化	正誤判断(組合せ)	読解と史実の年代暗記	4	83.8	疑
			a 古い時代の中国の漢字文化の影響なし					
			b 朝鮮諸国の漢字文化の影響					
			c 吉備真備の文化の輸入					
			d 白村江の戦い					

	問4	国風文化	正文選択(組合せ)	選択肢の読解	3	92.3	易
		X 日本独自の貴族文化					
		Y 中国文化の影響あり					
		a 大学での儒教や紀伝道の教育					
		b 勅撰の漢詩集→勅撰の和歌集					
		c 貴族は唐物を愛用					
		d 白木造・檜皮葺, 畳の使用					
	問5	古代の文字使用の歴史のまとめ	誤文選択	断片的史実の暗記	1	90.6	易
		① 文字使用は冊封体制離脱から					
		② 5世紀の刀剣の文字は大王への奉仕					
		③ 文字使用は律令制度導入による					
		④ 平安時代に女性が仮名文字で文学					
3		中世の都市と地方の関係	リード文				
	問1	紀伊国那賀郡神野真国荘の成立	史料と絵図				
	(1)	荘園の史料の読解	正誤判断(組合せ)	史料の読解	1	92.3	易
		X 院庁の命による国衙から郡司へ					
		Y 郡司が院の使者とともに荘園認定作業					
	(2)	絵図の読み取り方法	正文選択(組合せ)	絵図の読解	3	95.7	易
		X 勝示が設置された場所を発見					
		Y 勝示と勝示を線でつなぐ					
		a 勝示は田や村の中心に設置					
		b 勝示は山や川沿いに設置					
		c 荘園の領域					
		d 荘園内の各村の境界					
	問2	平安時代末～鎌倉時代の都市と地方の関係	誤文選択	断片的史実の暗記	2	76.9	易
		① 伊勢平氏は京都でも武士として活動					
		② 禅文化の東国への拡大, 六勝寺造営					
		③ 白河上皇の熊野詣					
		④ 鎌倉幕府の御家人, 京都へ奉公					
	問3	室町時代の一揆	並べ替え	史実の年代暗記	5	76.1	易
		I 山城の国一揆					
		II 加賀の一向一揆					
		III 正長の徳政一揆(土一揆)					
	問4	鎌倉～室町時代の都市と地方の交流	事項選択(組合せ)	断片的史実の暗記	4	78.6	悪
		X 諸国遍歴で連歌を広めた人物					
		Y 宋や元の影響を受けた陶器					
		a 西行					
		b 宗祇					
		c 赤絵					
		d 瀬戸焼					
4		近世社会における儀式や儀礼	設問文				
	問1	江戸城本丸御殿の殿席	正誤判断(組合せ)	図と説明文の読解	2	83.8	易
		X 譜代大名の殿席は外様大名より奥					
		Y 井伊直弼と徳川斉昭は同じ殿席					
	問2	武家諸法度	並べ替え	史実の暗記	6	77.8	良
		I 大船の建造禁止の解除					
		II 文武弓馬の道→文武忠孝					
		III 参勤交代					

	問3	江戸時代の対外関係	正文選択	断片的史実の暗記	3	94.9	易
		① 朝鮮へ通信使派遣					
		② オランダ風説書で日本の情報を世界に					
		③ 琉球国王、謝恩使を幕府に派遣					
		④ アメリカとの緊張激化で松前奉行設置					
	問4	近代以降の祝日・祭日					
	(1)	1814年の町法	誤文選択	史料の読解	2	94.9	易
		① 休日は遊び日とも呼ばれる					
		② 臨時の休日は全国で一律に制定					
		③ 休日が必要な時は申し出					
		④ 休日に手習いや算を奨励					
	(2)	1868年8月の布告	正文選択(組合せ)	史料の読解	1	98.3	易
		a 天長節には刑罰の執行停止					
		b 天長節はこの年1回限り					
		c 庶民に天長節を祝うことを促す					
		d 庶民に天長節を祝うことを禁止					
5		女性解放運動の景山英子の事績	リード文				
	問1	大阪事件と社会主義運動	事項選択(組合せ)	史実の暗記	1	60.7	悪
		ア 大阪事件の目的					
		イ 社会主義への接近					
		① ア朝鮮の内政改革 イ平民社					
		② ア朝鮮の内政改革 イ政教社					
		③ ア台湾の支配 イ平民社					
		④ ア台湾の支配 イ政教社					
	問2	幕末維新期の武士	事項選択(組合せ)	史実の暗記	2	93.2	悪
		X 薩摩藩・薩長同盟					
		Y 榎本武揚・新政府軍に降伏					
		a 西郷隆盛					
		b 木戸孝允					
		c 新潟					
		d 箱館					
	問3	角筭女子工芸学校設立(1901年)	正文選択(組合せ)	史料の読解と年代暗記	4	64.1	易
		a 優美な技術の教育					
		b 生計の助けになる技術の教育					
		c 設立後に教育勅語発布					
		d 設立後に義務教育期間が6年に延長					
	問4	1907年の女性問題	正誤判断(組合せ)	史実の年代暗記	3	61.5	標準
		X 新婦人協会					
		Y 政治集会参加の禁止					

6	第二次世界大戦後の民主化政策		生徒の発表用資料				
	1	農地改革の歴史的背景(戦前期)					
		問1	明治期の寄生地主制の形成	正誤判断(組合せ)	史実の暗記	3	50.4 易
			X 小作料は現金支払い				
			Y 子どもを工場で働かせる小作人がいた				
		問2	1920年代に活動した組織	事項選択	史実の年代暗記	1	76.9 易
			① 全国水平社				
			② 日本社会党				
			③ 明六社				
			④ 翼賛政治会				
		問3	1920～30年の寄生地主制	正誤判断(組合せ)	史実の暗記と推論	4	87.2 易
			X 発展				
			Y 動揺				
			a 小作料の引上げ実現				
			b 小作料引下げ運動				
	2	農地改革の歴史的背景(戦時期)					
		問4	戦時下の物資の統制	正誤判断(組合せ)	史実の暗記	1	59.0 悪
			X 砂糖・マッチなどの切符制				
			Y 国家総動員法による価格等統制令				
		問5	農業統制政策の目的	正誤判断(組合せ)	資料の読解	2	94.9 易
			X 小作人を優遇する政策				
			Y 地主を優遇する政策				
			a 寄生地主制を強化するため				
			b 食料の生産を奨励するため				
	3	農地改革の過程と実績					
		問6	農地改革の過程と実績	誤文選択	資料とグラフの読解	4	95.7 易
			① GHQは寄生地主制が軍国主義の原因				
			② GHQの指示による第2次農地改革				
			③ 小規模経営は改革後もほぼ不変				
			④ 兼業農家の比率は改革前後で不変				
		問7	戦後の農業の展開	正誤判断(組合せ)	史実の暗記	1	83.8 易
			a コメの生産調整のための減反政策				
			b コメの輸入量減少のための減反政策				
			c 農業経営改善のための農業基本法				
			d 自作農創設のための農業基本法				

第1-W表 共通テスト世界史Bの問題構成

大問	中間	小問	小問テーマ	出題形式	設問の要求する能力	正解	正答率	評価
1			資料と世界史上の出来事との関係					
	A		史記の始皇帝死亡時の逸話	史料と説明文				
		問1	始皇帝の大臣(丞相)	空欄補充(組合せ)	史実の暗記	3	93.2	易
			あ 孟子					
			い 張儀					
			う 李斯					
			X 家族道徳					
			Y 無差別に人を愛す					
			Z 法律による人民支配					
		問2	世界史上の思想統制	正文選択	断片的史実の暗記	3	79.6	易疑
			① 始皇帝の焚書					
			② エフェソス公会議・教皇の至上権					
			③ ナチス体制・ゲシュタポ					
			④ 冷戦下のイギリス・マッカーシー					
		問3	司馬遷が批判した政策	正文選択	史実の暗記	2	87.4	易
			① 諸侯の権力削減					
			② 平準法による物価統制					
			③ 董仲舒・儒教の官学化					
			④ 三長制による土地・農民の把握					
	B		マルク=ブロックの著書の引用	860字の長文				
		問4	ブロックの叙述内容と背景	正文選択(組合せ)	長文の読解	3	84.5	易
			あ 国民議会による教会財産の国有化					
			い 総裁政府による国王処刑					
			X 村の歴史叙述・農村共同体の資料					
			Y 資料の良好な保管は領主が俗人					
			Z 資料の良好保管は俗人領主が亡命					
		問5	ブロックの「嫌われた体制」の特徴	正文選択	断片的史実の暗記	4	95.2	易
			① 産業資本家の社会的地位が高い					
			② 征服された先住民・ヘイロータイ					
			③ 強制栽培制度					
			④ 貴族が第二身分					
2			世界史上の貨幣					
	A		1750～1821年のイギリスの金貨製造量	グラフ				
		問1	金貨製造量が初めて500万ポンドに達する前の出来事	正文選択	断片的史実の暗記	2	87.4	易
			① イダルゴの蜂起→メキシコ独立					
			② ボストン茶会事件					
			③ トルコマンチャーイ条約					
			④ 神聖同盟結成					
		問2	1750～1821年のイギリスの紙幣流通量	空欄補充(組合せ)	史実とグラフの読解	3	84.5	良
			① アーロシア イ紙幣の大量発行					
			② アーロシア イ紙幣の発行抑制					
			③ アーフランス イ紙幣の大量発行					
			④ アーフランス イ紙幣の発行抑制					
		問3	1852年当時のイギリスの君主の事績	正文選択	年代暗記	1	88.4	易
			① インド皇帝即位					
			② グレートブリテン王国成立					
			③ 統一法制定					
			④ ハノーヴァー朝					

	B	アジアの貨幣	先生と生徒の会話				
	問4	16世紀の中国の銀使用	空欄補充	年代暗記	3	73.8	易
		① 中国産の銀の日本への大量流入					
		② 地丁銀制導入					
		③ 各種の税や徭役を銀に一本化					
		④ アヘンの密貿易で大量の銀流出					
	問5	半両銭と交鈔	空欄補充(組合せ)	史実の暗記	3	86.4	標準
		エ 半両銭の材料					
		オ 半両銭を流通させた王朝					
		カ 元代の交鈔の材料					
	問6	「トルコ人の父」の事績	誤文選択	史実の暗記	3	79.6	易
		① トルコ大国民会議を組織					
		② ギリシア軍を撃退					
		③ カリフ制を廃止					
		④ トルコ語の表記にアラビア文字採用					
3		文学者やジャーナリストの作品					
	A	デカメロン	引用文				
	問1	デカメロンの作者と文化の特徴	正誤判断(組合せ)	史実と年代暗記	4	96.1	易
		あ ベトラルカ					
		い ボッカチオ					
		う エラスムス					
		S ダーウィンの進化論の影響					
		T 人文主義の思想が基調					
	問2	14世紀の流行病	正誤判断(組合せ)	史実の暗記と読解	5	92.2	易
		え コレラ					
		お ベスト(黒死病)					
		X 死亡の徴候はすべて同じ					
		Y 西欧では農民人口激減で地位向上					
		Z アメリカ大陸からもたらされた					
	問3	修道院や修道会の説明	正文選択	断片的史実の暗記	2	88.4	悪
		① インノケンティウス3世, モンテ=カシノに修道院					
		② シトー修道会, 森林の開墾					
		③ クローヴィス, クリュニー修道院					
		④ ヘンリ3世, 修道院解散					
	B	大庭柯公のロシアの革命運動の論評	引用文				
	問4	世界史における宗教と教育・政治との関係	誤文選択	断片的史実の暗記	4	87.4	易
		① フランス, 20世紀初めに政教分離法					
		② 中世ヨーロッパで神学重視					
		③ イスラム世界, マドラサが教育機関					
		④ 隋・唐で仏教の理解を問う科挙					
	問5	農民の覚醒の推進者と抑圧者, スローガン	空欄補充(組合せ)	史料読解と史実の暗記	2	97.1	易
		イ 農民の覚醒を促す					
		ウ 農民の覚醒の防止					
		① イ 官僚, ウ 革命家, ヴ=ナロード					
		② イ 革命家, ウ 官僚, ヴ=ナロード					
		③ イ 官僚, ウ 革命家, 民族自決等					
		④ イ 革命家, ウ 官僚, 民族自決等					
	問6	農奴解放の人物と事績	空欄補充(組合せ)	史実の暗記	3	72.8	易
		あ エカチェリーナ2世					
		い アレクサンドル3世					
		X 樺太・千島交換条約締結					
		Y クリミア半島獲得					

	C	ジョージオーウェル『1984年』	作品の概要				
	問7	ソ連の抑圧体制批判の背景	正文選択	資料読解と年代暗記	1	97.1	易
		① ソ連のスターリンの粛清					
		② 中国の文化大革命					
		③ 開発独裁					
		④ 北朝鮮で最高指導者の世襲					
	問8	18世紀中国の図書編纂における改ざん	正文選択	史実と年代暗記	2	72.8	標準
		① 四庫全書: 中国と外国との盟約					
		② 四庫全書: 漢人に異なる風俗の強制					
		③ 永楽大典: 宋と遼の習俗の違い					
		④ 永楽大典: 漢人に異なる風俗の強制					
		⑤ 資治通鑑: 中国と外国との盟約					
		⑥ 資治通鑑: 宋と遼との習俗の違い					
4		国家や官僚が残した文書					
	A	19世紀ヨーロッパで締結された条約	条文の抜粋				
	問1	戦争後に締結され破棄された条約	事項選択(組合せ)	史実の暗記	2	77.7	易
		① 露土戦争-パリ条約					
		② 露土戦争-サン=ステファノ条約					
		③ クリミア戦争-パリ条約					
		④ クリミア戦争-サン=ステファノ条約					
	問2	ベルリン条約で自治領となった地域の位置	空欄補充と地図	史実の暗記と地図	2	61.2	難
		① a(モンテネグロ)					
		② b(ブルガリア)					
		③ c(ギリシア)					
		④ d(キプロス)					
	問3	資料の条約締結後の出来事	正誤判断(組合せ)	史実の暗記	3	84.5	易
		あ イタリアがボスニア・ヘルツェゴヴィナ併合					
		い オーストリア帝位継承夫妻がサラエヴォで暗殺					
	B	上野動物園での生徒の会話	冷戦期の外交文書				
	問4	日中米ソの外交文書	空欄補充(組合せ)	資料読解と史実の理解	1	98.1	易良
		X 中華人民共和国とイとの共同声明					
		Y 中華人民共和国とウとの条約					
		Z 中華人民共和国と日本との共同声明					
		① イ-アメリカ合衆国 ウ-ソ連					
		② イ-アメリカ合衆国 ウ-インド					
		③ イ-フランス ウ-ソ連					
		④ イ-フランス ウ-インド					
	問5	資料X～Zの年代整序	並べ替え	外交関係の理解	3	78.6	易良
	問6	サンフランシスコ講和会議に中華人民共和国が招かれなかった理由	正文選択	史実の理解	2	79.6	易良
		① 国共合作					
		② アメリカは中華民国を代表					
		③ 朝鮮戦争への参戦					
		④ 民主化運動を武力弾圧					
	C	英領インドの統治	資料と会話文				
	問7	古代インドの文学作品と資料の読解	正誤判断(組合せ)	読解と史実の暗記	1	88.4	易
		あ シャクンタラー					
		い ルバイヤート					
		W アラビア語はインド人の教育に効果的					
		X 東洋学者に西洋文献の優位性否定者					

	問8	英語教育の動機と植民地政策	正誤判断(組合せ)	断片的史実の暗記	3	84.5	易
		う イギリス統治以前にも使用					
		え 英語とインド諸語を理解する役人育成					
		Y 藩王国を存続させ一部で間接統治					
		Z ムスリムと仏教徒を対立させるベンガル分割令					
	問9	ムガル帝国時代のインド	正文選択	断片的史実の暗記	2	90.3	易
		① ペルシア語をもとにタミル語が生まれた					
		② シャー=ジャハーン期にタージ=マハル					
		③ 影絵人形劇のワヤンが発達					
		④ ウルグ=ベクが天文台建設					
5	旅と歴史						
	A	ヨーロッパの3つの地域の歴史	生徒の旅行記				
		地域1 ガリバルディがイタリア統一で占領					
		地域2 島国の首都, 1851年に万国博覧会					
		地域3 第1回近代オリンピック開催の都市					
	問1	地域1について述べた文	誤文選択	断片的史実の暗記	1	74.8	易
		① イスラムの影響, ラテン語のトルコ語訳					
		② ノルマン人が支配					
		③ 連合軍の上陸作戦, ムッソリーニ失脚					
		④ ギリシア人・フェニキア人が植民					
	問2	フランスの歴史と百年戦争	空欄補充(組合せ)	断片的史実の暗記	1	92.2	易
		A 14~15世紀の王位をめぐる戦争					
		イAの戦争に関連する史実					
		あ WW I 後にベルギーとルール占領					
		い カルマル同盟でデンマークと合併					
		X フランドル地方をめぐる対立					
		Y 戦時中に地域2を含む国でノルマン朝					
	問3	古代ローマの支配下の年代整序	並べ替え	断片的史実の年代暗記	2	68.0	難
	B	朝鮮半島で19世紀半ばに建てられた石碑	長文の会話文				
	問4	19世紀後半の摂政と対外政策	空欄補充(組合せ)	史実の暗記と読解	4	69.9	易
		ウ 19世紀後半に石碑を立てた人物					
		エ 子孫に伝える目的					
		あ 西太后					
		い 大院君					
		X 海上貿易を政府が管理すること					
		Y 欧米列強に徹底抗戦					
	問5	「衛正斥邪」思想	正文選択	断片的史実の暗記	2	47.6	難
		① 寇謙之によって教団が作られた					
		② 王守仁によって批判された					
		③ 義浄らが持ち帰った経典が翻訳された					
		④ 王重陽によって革新が唱えられた					
	問6	19世紀の朝鮮の干支を冠した出来事	並べ替え	史実の年代暗記	1	62.1	易
		う 壬午の年の軍隊による反乱					
		え 甲申の年の急進改革派のクーデタ					
		お 甲午の年の東学による農民戦争					
		① う→え→お					
		② う→お→え					
		③ え→う→お					
		④ え→お→う					
		⑤ お→う→え					
		⑥ お→え→う					

## (3) アクティブ・ラーニング(AL)の設定

AL が設定された問題は、J では大問の第 1 問、第 2 問と第 6 問で、W では第 2 問の中間 B、第 3 問の中間 C、第 4 問の中間 B と C、第 5 問の中間 B である。高校での学習を想定した会話文や生徒の調査資料などが提示され、各設問が導かれている。プレテストと同様に、高校教育における AL の参考事例を提示することが目的と思われる。しかし、特に会話文では各設問の内容とは無関係の会話が多く、設問を導くために会話の内容が不自然だったり飛躍したりしているものが少なくない。

例えば、J の第 1 問では「貨幣の歴史」という問題のテーマを掲げたのち、生徒が事前学習のために博物館に行った際の会話とメモが提示されている。この会話文とメモは合計約 1000 字にも及ぶ長文である。150 字程度のメモのうち 80 字程度は解答のヒントになっているが、800 字ほどの会話文は解答のヒントにもなっておらず、下線部によって小問を導くためだけの文章である。その下線部も小問に解答するためには読む必要のない語句・文である。

受験技術に長けた受験生は会話文を読まないだろうが、そうでない受験生は設問内容を理解するために読もうとして、結果的に解答のためには無関係で時間の無駄だったことに気づくはずである。第 1 問の 6 つの小問を導くためには、次のような設問文とリード文とし、必要に応じて下線部を設ければ済む。字数は約 200 字に削減できる。

第 1 問 日本の貨幣の歴史についての次の文章を読み、以下の問 1～問 6 に答えなさい。

古代国家は唐の制度にならって銭貨を鑄造した。銭貨の鑄造は国家が独占し、さまざまな財政支出に用いた。銭貨の流通を奨励したが、畿内や周辺地域以外では米や麻布などによる取引が行なわれた。

鎌倉時代以降、海外から銭貨が大量に輸入され、中世の商品流通を支えるようになった。近世になると、金貨・銀貨・銅貨の鑄造に加えて、藩札などの紙幣も流通するようになった。

明治時代になると、政府は新貨条例を制定するなど、貨幣制度の全国的な統一とともに、外国との取引のため、国際標準に対応する貨幣制度の整備をめざした。

W の第 3 問の B は、ジョージ=オーウェルの小説『1984』の概要と著者の経歴を紹介した約 600 字の文章の後に、2 人の生徒の 2 行ずつの質問票が示されている。1 人目の質問は、問 7 のソ連の抑圧体制の背景を出題するための文章で、設問文に「オーウェル(1903～1950 年)」とあるから、4 つの選択肢のうち、1950 年までの出来事は「① ソ連では、スターリンによる粛清が行われた」だけだとわかれば正解となる。2 人目の質問は、問 8 の 18 世紀中国の図書編纂における改ざんを導くためだけのもので、オーウェルとは無関

係である。したがって、この AL のための長文を読む必要はない。

AL の問題点のもう 1 つは、拙著の第 2 部で指摘したように、生徒の学習資料に基づいた出題という形式である。J の第 6 問は、農地改革の歴史的背景として戦前期と戦時期、農地改革の過程と実績の 3 つの中間で構成されている。問題点は 3 問ともに生徒の作成した発表用スライドが提示され、その資料に基づく小問が出題されていることである。

戦時期については、スライドの「寄生地主制の  (1920 年代～1930 年代前半)」の空欄に入る語句とその理由の組合せを解答させる小問がある。語句の選択肢は「X 発展」と「Y 動揺」、理由の選択肢は「a 小作料の引き上げが実現した」と「b 小作料の引き下げを求める動きが広まった」である。正解は Y と b の組合せとされている。しかし、生徒の作成したスライドという AL の設定では、その内容が正しいとは限らない。

1920 年代に小作料引下げを求める小作争議が急増したのは事実であるが、それを寄生地主制の「動揺」と規定できるかどうかは議論の余地があるだろう。教科書掲載のグラフでは、1930 年代初めまで小作地は増加しているから、寄生地主制の「発展」と解釈することも可能である。正解以外の語句と理由の組合せは明らかに不適切だから、問題として成立しているが、疑問の残る出題である。また農地改革の実績として、グラフが提示され、グラフの読み取りに基づく誤文選択問題が出題されているが、これも生徒の作成したグラフが正しいとは限らないという難点がある。

この程度の AL は高校教育では実践されているはずであるから、入試問題として空欄補充や正誤判断問題を出題する場合、このような AL を設定する積極的意味はない。生徒の発表資料という正誤の判断基準に曖昧さをともなう出題は避けるべきである。戦後の占領下での民主化政策について、AL を設定して知識の理解に基づく思考力・判断力を問う問題にするとしたら、誤文選択形式で、4 人の生徒に発言させ、史実に照らした妥当性や論理的整合性を基準として誤りを含む文を解答させる方法が考えられる。

例えば、占領開始当初の日本の軍国主義破壊のための民主化政策が、冷戦のアジアへの拡大を背景として変更されていくことについて、生徒に具体的な出来事を発言させる。発言内容は、財閥解体(過度経済力集中排除法)の緩和、政令 201 号、経済安定九原則、2.1 ゼネストの中止命令と冷戦の推移と結びつけたものとする。冷戦開始の公式宣言とされるトルーマン・ドクトリン演説は 1947 年 3 月で、対日占領政策の転換は 1948 年 1 月のロイヤル陸軍長官演説で表明されたので、教科書の記述の知識があれば、誤りは 2.1 ゼネスト中止命令と判断できる(この論点は経済学部の過去の入試問題で複数回出題済み)。

(4) 入試問題としての妥当性

第 2, 3 表は, 2 回のプレテスト, 2020 年 1 月実施のセンター試験, 2021 年 1 月実施の共通テストの出題形式, 各設問の解答に必要な能力を比較できるように集計したものである。J-1~3 図, W-1~3 図は, 4 つのテストの出題傾向を視覚的に把握するために, 2 つの表をグラフ化したものである。これらの表と図から, 思考力・判断力の評価を理念として掲げているはずの共通テストの問題点が浮かび上がってくる。以下, 拙著第 2 部のプレテストの検討と同様に, 第 1 部の出題マニュアルに基づくケーススタディとして, 必要に応じてプレテストやセンター試験と比較しながら検討していく(以下, 本文では, プレテストの日本史 B は PTJ, 世界史 B は PTW, センター試験は同様に CTJ, CTW, 共通テストは KTJ, KTW と表記する)。

第 2 表 各設問の出題形式の比率

		設問 総数 A	正誤問題											
			設問数 B	B/A	正誤判断				正文選択				誤文選択	
					設問数 C	C/A	組合せ D	D/C	設問数 E	E/A	組合せ F	F/E	設問数 G	G/A
日本 史 B	第1回プレテスト	31	20	65%	4	13%	4	100%	9	29%	7	78%	7	23%
	第2回プレテスト	36	23	64%	7	19%	7	100%	13	36%	7	54%	3	8%
	20年センター試験	36	23	64%	7	19%	7	100%	12	33%	4	33%	4	11%
	21年共通テスト	32	24	75%	11	34%	11	100%	8	25%	7	88%	5	16%
世界 史 B	第1回プレテスト	36	23	64%	4	11%	4	100%	15	42%	3	20%	4	11%
	第2回プレテスト	34	29	85%	3	9%	3	100%	11	32%	2	18%	5	15%
	20年センター試験	36	31	86%	4	11%	4	100%	24	67%	0	0%	3	8%
	21年共通テスト	34	20	59%	4	12%	4	100%	12	35%	1	8%	4	12%

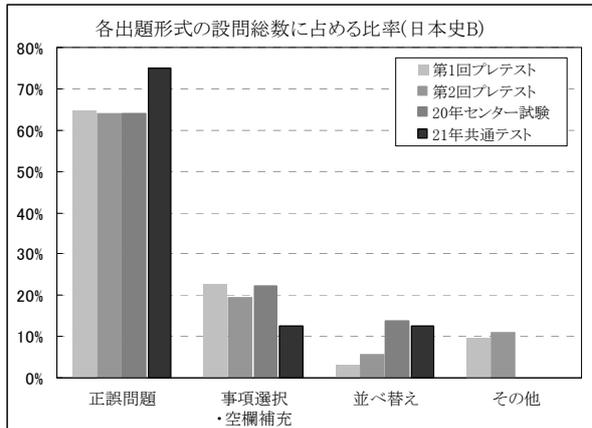
		設問 総数 A	事項選択・空欄補充				並べ替え		その他	
			設問数 H	H/A	組合せ I	I/H	設問数 J	J/A	設問数 I	I/A
日本 史 B	第1回プレテスト	31	7	23%	5	71%	1	3%	3	10%
	第2回プレテスト	36	7	19%	3	43%	2	6%	4	11%
	20年センター試験	36	8	22%	8	100%	5	14%	0	0%
	21年共通テスト	32	4	13%	3	75%	4	13%	0	0%
世界 史 B	第1回プレテスト	36	7	19%	3	43%	2	6%	4	11%
	第2回プレテスト	34	12	35%	8	67%	3	9%	1	3%
	20年センター試験	36	3	8%	3	100%	1	3%	1	3%
	21年共通テスト	34	11	32%	9	82%	3	9%	0	0%

第3表 各設問の解答に必要な能力の比率

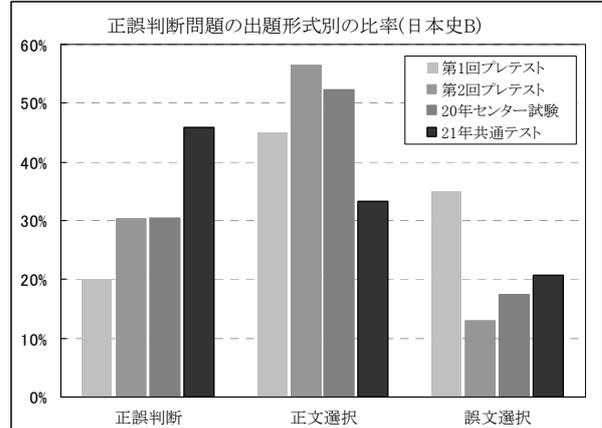
		設問 総数 A	暗記力 K	K/A	読解力 L	L/A	思考力 M	M/A
日本 史 B	第1回プレテスト	31	5	16%	8	26%	16	52%
	第2回プレテスト	36	10	28%	6	17%	1	3%
	20年センター試験	36	27	75%	6	17%	3	8%
	21年共通テスト	32	21	66%	14	44%	2	6%
世界 史 B	第1回プレテスト	36	19	53%	2	6%	9	25%
	第2回プレテスト	34	24	71%	4	12%	4	12%
	20年センター試験	36	36	100%	0	0%	0	0%
	21年共通テスト	34	29	85%	9	26%	0	0%

\* 比率の合計が100%を超えているのは、複数の能力を問う設問があるためである。

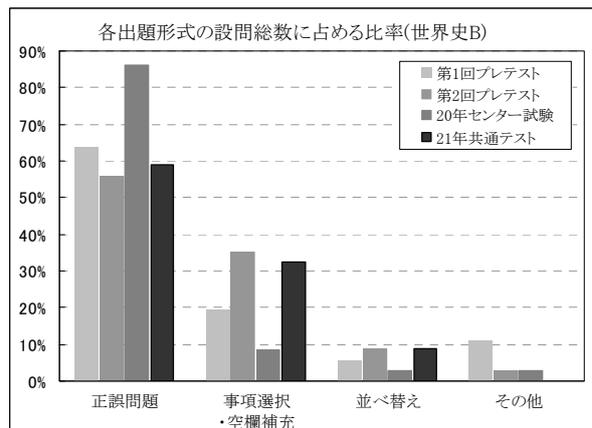
J-1 図 各出題形式の設問総数に占める比率



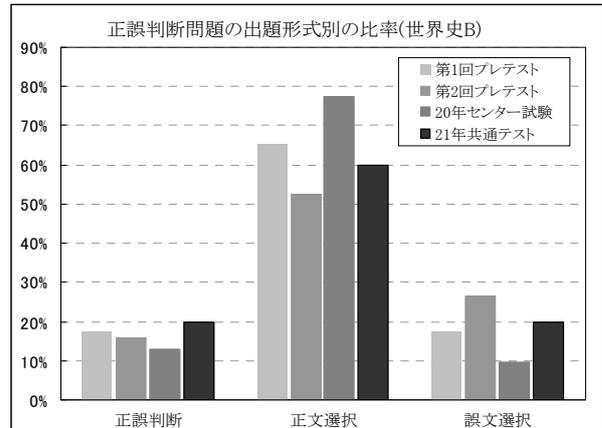
J-2 図 正誤問題の出題形式別の比率



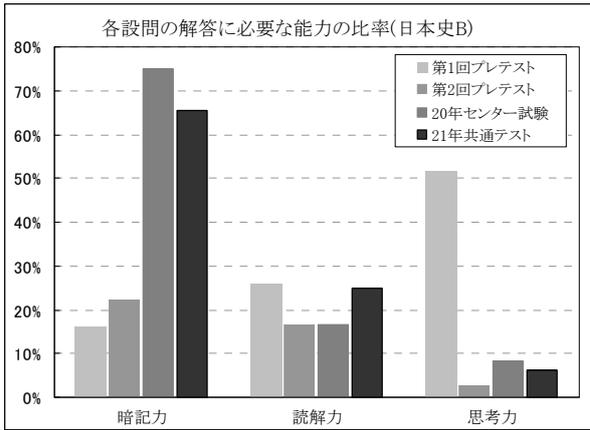
W-1 図 各出題形式の設問総数に占める比率



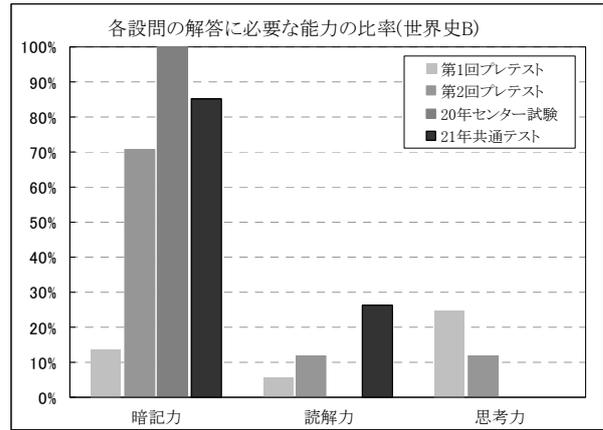
W-2 図 正誤問題の出題形式別の比率



J-3 図 各設問の解答に必要な能力の比率



W-3 図 各設問の解答に必要な能力の比率



① 日本史 B

(a) 組合せ形式の正誤問題重視とその問題点

出題形式別にみると、4回のテストのすべてで正誤問題が最多である。ただし、PTJとCTJでは65%前後であったのが、KTJでは設問総数32問の24問、75%に増加した。そのうち正誤判断形式が11問(46%、設問総数の34%)でもっとも多く、そのすべてがPTJとCTJと同様に組合せ問題である。

正文選択形式はPTJとCTJでは正誤問題の45~57%(設問総数の29~36%)と最多の出題形式だったが、KTJでは33%(設問総数の25%)に減少している。そのうち組合せ問題はCTJの33%に対して、88%と大半を占め、第1回PTJの78%をさらに上回っている。誤文選択形式は、第1回PTJが7問で設問総数の23%だったが、第2回PTJは3問、CTJは4問、KTJは5問で設問総数の16%である。

正誤判断(組合せ)は、2つの文や語句の正誤を判断させ、正と誤の4つの組合せ(正・正、正・誤、誤・正、誤・誤)を解答させる出題形式である。正文選択(組合せ)は、a~dの4つの文が提示され、選択肢は、a-c, a-d, b-c, b-dの4つである。つまり、4つの文が2種類の内容の2つずつの文から構成され、2つのどちらが正しいかを判断し、正しい文の組合せを解答する形式である。したがって、正誤判断(組合せ)と類似の出題形式である。この2種類の出題形式が正誤問題全体に占める割合は、PTJとCTJでは50%~60%であったが、KTJでは75%に増加している。

事項選択・空欄補充形式はPTJとCTJの20%前後から13%に減少しているが、そのうち75%が組合せ問題である。並べ替え形式はPTJの3~6%より増加し、CTJの14%とほぼ同比率の13%である。

以上の各テストの比較から、共通テストが掲げる思考力・判断力を評価するという理念を具体化する手段として、組合せ形式の正誤問題が重視されていると考えてよいだろう。組合せ形式が多用されているのは、二者択一の正誤判断や正文選択では、内容を理解せずに“ヤマカン”で解答しても正答率が 50%になるのを避けるためと思われる。

しかし、拙著 22～23 ページで述べたように、組み合わせる 2 種類の正誤問題は時系列関係や因果関係、相互関係など一定の関係性があり、両者を理解していることが必須のものであるのが原則である。例えば、4 つの短文や語句のうち 2 つずつは関係性があるが、その 2 つずつのグループ相互には関係性がなかったとする。この場合、1 つのグループの正解がわかって、もう 1 つのグループの正解がわからなかった受験生は 0 点となり、どちらもわからなかった受験生と同じ評価になってしまう。つまり、受験生の学力を正當に評価できない問題となるのである。

#### 【ケーススタディ 1】

第 1 問 A 問 3 下線部⑤に関連して、中世の流通・経済に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④から一つ選べ(下線部⑤は「中世の権力者はこうした錢貨の流通にどう対応していたんだろう」で、選択肢は X と Y の正誤の組合せである)。

X 戦国大名だけでなく、室町幕府も撰錢令を出した。

Y 明との貿易をめぐり、細川氏と大内氏が寧波で争った。

#### 【出題の妥当性と修正案】

X・Y ともに教科書に記述のある正しい文であるが、受験生が両方を理解していることが不可欠であるような直接的関係性はない。史実の理解に基づく思考力等を評価するためには、X については、撰錢令を出す背景としての宋錢や明錢の流入、商工業の発達にともなう錢貨の需要増大、私鑄錢の流通などの理解を問う誤文選択などの設問にすべきである。Y については、朝貢貿易としての日明貿易、永樂通宝などの銅錢の大量流入、寧波の乱の背景としての幕府の衰退・細川氏と大内氏の貿易における勢力争いなどを問う設問にすべきである。

#### 【ケーススタディ 2】

第 1 問 B 問 6 日本の貨幣に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④から一つ選べ(設問文は 6 行であるが、最初の 4 行は省略した)。

a 中世には、錢貨として中国錢が流通したため、私鑄錢は使われなかった。

b 近世には、寛永通宝が大量に鑄造され、流通するようになった。

c 図 3 の事件の際、日本国内で旧円の旧紙幣が流通を禁止されていたのは、金融緊急措置令が公布されたためであった。

d 図 3 の事件の際、日本では 1 ドル＝360 円の単一為替レートが採用されていた。

選択肢は① a・c ② a・d ③ b・c ④ b・d である。

## 【出題の妥当性】

a と b, c と d がそれぞれ 1 組の正文選択(組合せ)問題である。時代も政治経済的背景もまったく異なる 2 組の史実を組み合わせる設問が、受験生の学力を正當に評価できない悪問であることは明らかであろう。正答率が 65.8%と低いのがその証明である。なお、「図 3 の事件」とは、ブラジルの詐欺事件を報じる新聞のコピーで、250 字ほどの先生の解説文が示されている。図 3 には新聞が 1947 年 5 月 3 日付であることが記されているので、金融緊急措置令の公布と単一為替レートの設定の年代暗記問題で、解答のために解説文を読む必要はない。

4 つのテストすべての組合せ問題で、上記の原則に反する出題が多数を占めているのだが、特に KTJ では正誤問題の 75%が組合せ形式となっているため、受験生の学力を正當に評価できなくなっている。さらに、事項選択問題でも 4 問中 3 問が組合せ形式となっている。

## 【ケーススタディ 3】

第 3 問 問 4 下線部④に関連して、鎌倉時代から室町時代の都市と地方、及び地方間の交流に関して述べた次の文 X・Y と、それに該当する語句 a～d との組み合わせとして正しいものを、下の①～④から一つ選べ(下線部④は「都市と地方との関係」である)。

X この人物らが諸国を遍歴したことで、各地に連歌が広まり、地方文化に影響を与えた。

Y 宋や元の影響を受けて、地方で製造された陶器の一つで、流通の発展によって各地に広まった。

a 西行 b 宗祇 c 赤絵 d 瀬戸焼

① X-a Y-c ② X-a Y-d ③ X-b Y-c ④ X-b Y-d

## 【出題の妥当性】

各地に連歌を広めた人物は西行か宗祇か、宋や元の影響を受けた陶器は赤絵か瀬戸焼かの事項選択(組合せ)問題である。宗祇が正風連歌を広めたことと陶器の瀬戸焼との間に関係性がなく、両方に正解しなければ正答とならない合理的理由がないことは明らかであろう。正誤の組合せの 1 つずつの難易度は高くないが、正答率は 78.6%にとどまっている。どちらか 1 つは知っていた受験生が両方知らなかった受験生と同じ 0 点になったからであろう。この設問も受験生の学力を正當に評価できない悪問である。

正誤問題と事項選択・空欄補充問題の組合せ形式が設問総数に占める割合は、CTJ は 52.8%、第 1 回 PTJ は 51.6%、第 2 回 PTJ は 47.2%に対して、KTJ では 65.6%に増加している。受験生の学力を正當に評価できない問題、すなわち入試問題の選抜機能を歪める悪問が増加しているのである。

## (b) 史実や年代の暗記を問うだけの正誤問題

正誤問題は、誤りの作り方を工夫することによって、史実の理解に基づく思考力・判断

力を評価するのに適切な出題形式である。例えば、【ケーススタディ 1】の X と Y についてコメントした内容を誤文選択形式で出題すれば、室町時代の商工業の発達や日中関係について思考力等を問う設問となる。

また、【ケーススタディ 2】の金融緊急措置令や単一為替レートを問うなら、ドッジ・ライン、朝鮮戦争にともなう特需、合理化投資などと関係づけて誤文選択形式の設問とする。こうすれば、冷戦のアジアへの拡大を背景として、占領政策が日本の経済復興を促進する方向に転換されたこととの関係の理解を基礎として、思考力等を問う設問にすることができるのである(経済学部の過去の入試問題で複数回出題済み)。

これらのトピックを、時系列関係や因果関係、相互関係などを盛り込んだ 4 つの選択肢の文で出題しようとするれば、ある程度の字数が必要となる。文が短すぎれば、【ケーススタディ 2】のように、正誤判断のレファレンスは語句や年代の適否とならざるを得ないからである。逆に、文が長すぎれば問題分量は多くなるし、正誤判断のレファレンスが多数となり、選抜機能が有効でなくなるほど難易度が高くなる可能性がある。また、出題ミスの可能性も高くなるからである。文の長さは 80~100 字程度が適切であろう。

例えば、朝鮮戦争にともなう特需によってドッジ不況が回復した経緯の理解を問う選択肢の文は以下のとおり(過去の経済学部の入試問題を一部修正)。

朝鮮戦争が始まると、日本は朝鮮半島に出動したアメリカ軍の後方支援の拠点としての役割を果たすことになり、それにともなう特需によって生産が増加し、日本経済はドッジ不況から回復した。

この選択肢の他に、占領政策が日本の非軍事化から経済を復興させる方向に転換された経緯、ドッジ・ラインの内容、国際経済と結びつけるための単一為替レートの設定などの文を提示すれば、史実の理解に基づく思考力等を評価する問題にすることができる。

KTJ の正誤問題の選択肢の文は、短いもので 20 字程度、大半が 30 字程度で、例外的に長いものでも 60 字程度である。この長さでは、形式的には正誤問題であっても、実質的には空欄補充や事項選択形式と同じで、史実や年代の暗記問題にならざるを得ない。

#### 【ケーススタディ 4】

第 4 問 問 3 江戸時代の様々な儀礼は政治行為であり、大名を対象とするだけでなく、対外的な儀礼も含まれている。江戸時代の対外関係について述べた文として正しいものを、下の①~④から一つ選べ。

- ① 将軍は、新たに就任すると朝鮮へ通信使を派遣した。
- ② オランダは、オランダ風説書で日本の情報を世界に伝えた。
- ③ 謝恩使は、琉球国王の代替わりに際して、幕府に派遣された。

④ アメリカとの緊張が高まると、幕府は松前奉行を設置した。

【出題の妥当性】

この設問が要求しているのは、①は通信使、②はオランダ風説書、③は謝恩使、④は松前奉行の知識の暗記であるし、誤りの作り方も安易である。通信使は朝鮮から日本へ、オランダ風説書は世界の情報を日本へ、松前奉行は対ロシア防備で、①と②は方向を逆にし、④は国名を変えただけである。これらの背景や変化の説明を付加するだけでも、思考力等を一定程度問う設問にすることが可能である(経済学部過去の入試問題で出題済み)。

また、設問文の前半で、「対外的な儀礼も含まれている」として江戸時代の対外関係の出題の意味づけがされているが、オランダ風説書や松前奉行の設置は対外的儀礼ではないだろう。この設問や【ケーススタディ 14】の武家諸法度の設問を、第 4 問の設問文で「近世社会の儀式や儀礼」をテーマに設定して出題したために、出題者はこのような無理のある理由づけをしなければならないと考えたのだろう。

以上のように、KTJ では、史実の理解に基づく思考力等を問うのに適した正誤問題が、設問総数の 75%と最も多用されている。しかし、その選択肢の文が短いために、実質的には暗記力を問う問題が設問総数の 66%を占めることになっているのである。2020 年の CTJ の設問の 75%が暗記問題であったのに比べれば減少しているが、第 1 回 PTJ は 16%だったので 4 倍以上に増加している。

拙著第 2 部で検討したように、第 1 回 PTJ では思考力等を評価する意図に基づく新機軸の問題が多数出題されていたが、正誤判断基準の曖昧さや不適切な AL などのために、結果的に悪問や出題ミスにつながっていた。第 2 回 PTJ では思考力等を問う意図が感じられる問題は激減したものの、単純な暗記問題は 28%に過ぎなかった。しかし、KTJ では暗記力重視の CTJ の出題に逆戻りしたと評価するしかない。

(c) 思考力・判断力を問うことを意図したと思われる問題の内実

KTJ の問題のもう 1 つの特徴は、提示された資料を読解することができれば、史実の知識や理解がなくても解答できる設問が多数出題されていることである。第 3 表が示すように、PTJ では設問総数の 26%、17%、CTJ では 17%であるが、KTJ では 44%を占めている。これは、おそらく出題者が思考力等を問うことを意図して作成したものと思われるが、そのすべてが日本史の問題というよりは、国語力やグラフの読解力を問う問題になっている。その例を 3 つ挙げておく。

【ケーススタディ 5】

第 1 問 B 問 4 下線部◎に関連して、江戸時代に流通した小判の重量と金の成分比率の推移を示す次

の図 2 を参考にして、江戸時代の小判について述べた文として誤っているものを、次の①～④から一つ選べ(下線部◎は「金貨」である。図は省略した)。

- ① 新井白石の意見により、幕府が鑄造した正徳小判は、重量も成分比率も、慶長小判と同じ水準に戻された。
- ② 幕府は必要に応じ、鑄造小判における金の成分比率を変化させたが、50%以下になることはなかった。
- ③ 元文小判の金の成分比率は、正徳小判よりは低く、後の時代よりは高かった。
- ④ 国内と海外で金銀比価が違ったために、開国後、幕府は小判の金の成分比率を減らして対応した。

#### 【出題の妥当性】

選択肢②と③は史実とは無関係の金の成分比率の変化についての文で、グラフを読解できれば正しいと判断できる。①は「幕府が……」はグラフから正しいと判断できるが、「新井白石の意見により」の正誤は史実の知識が必要である。④の正誤判断のためには開国時期の知識が必要である。

ただし、グラフを読み取れば、成分比率が減ったのは元文小判(1736年)と文政小判(1819年)で、天保小判(1837年)以降は成分比率は同じで重量が削減されていることがわかる。開国時期が19世紀後半であることは常識の部類だろうから、新井白石についての知識がなくても④が誤文と判断できる。正答率が88.9%と高いのも当然である。

#### 【ケーススタディ 6】

第3問 問4 Bさんは下線部◎に関して、「国風文化」について次のX・Yのような評価があると述べた。Xの根拠をa・b、Yの根拠をc・dから選ぶ場合、その組み合わせとして最も適当なものを、下の①～④から一つ選べ(下線部◎は「日本独自の文字として、9世紀頃に平仮名と片仮名が生み出され、10世紀から11世紀にかけて定着していく」である)。

X 前代の「唐風」を重んじる文化に対して、日本独自の貴族文化が発達した。

Y 「国風」と称されているが、中国文化の影響も見られる。

- a 大学では、儒教や紀伝道の教育がなされた。
- b 勅撰の漢詩集に代わって、勅撰の和歌集が編まれた。
- c 貴族は、輸入された陶磁器などを唐物として愛用した。
- d 貴族は、白木造・檜皮葺の邸宅に住み、畳を用いた。

- ① X-a Y-c    ② X-a Y-d    ③ X-b Y-c    ④ X-b Y-d

#### 【出題の妥当性】

Xは「日本独自の貴族文化」であるから、aの「儒教や紀伝道」は不適切でbの「和歌集」が正しいと判断できる。Yは「中国文化の影響」であるから、cの「唐物として愛用」が正しく、dの「白木造……」が不適切と判断できる。史実の知識は不要で、常識的な国語力があれば正解できることが明らかであろう。この設問も正答率が92.3%と高水準なものも当然である。

#### 【ケーススタディ 7】

第6問 問6 スライド3を参考にしながら、農地改革の過程と実績に関して述べた文として誤って

いるものを、次の①～④から一つ選べ。

「スライド 3」の概要は以下のとおり。1 GHQ の目標として、軍国主義の温床の除去、寄生地主制の除去による自作農経営の創出。2 農地改革の過程として、政府主導の第一次農地改革案、GHQ の勧告による第二次農地改革の開始。3 農地改革の実績として、1935 年、1955 年、1965 年の経営規模別農家戸数と兼業農家戸数の割合のグラフ。

- ① GHQ は、日本の軍国主義の原因の一つに寄生地主制があると考えていた。
- ② 第一次農地改革案は不徹底であるとみなされ、寄生地主制の除去を求める GHQ の指示により、第二次農地改革が開始された。
- ③ 1965 年の農家の 9 割以上は経営規模 2ha 未満であり、1935 年時点と比べて経営規模の小規模性は大きく変化していない。
- ④ 1965 年の農家の約 8 割は兼業農家であり、1935 年時点と同様に、専業農家の割合は低いままである。

【出題の妥当性】

「経営規模別農家戸数と兼業農家戸数の割合」のグラフを見ると、経営規模 2ha 未満は 3 つの年代すべてで 90% 以上で、兼業農家の割合は、1935 年が 25% 程度、1955 年が 65% 程度、1965 年が 80% 弱となっている。したがって、④が誤文と判断するのはきわめて容易で、正答率は 95.7% で全設問中 2 番目の高さである。なお、②の文は、第一次農地改革の何が不徹底なのか、不徹底とみなした主体が不明確である。寄生地主制の除去を求める GHQ は、政府の第一次農地改革案を不徹底として、第二次農地改革を勧告した、ようにすべきである。

これら 3 つの例を、資料の読解力だけで正解できる問題から、史実の知識や理解、思考力等を問う問題に修正するのはそれほど難しいことではない。

【ケーススタディ 5】は、小判の改鋳が行なわれた理由や背景としての経済状況や幕府の財政、国際関係の変化、改鋳の影響などについて、誤文選択や年表挿入などの形式で出題すればよい。教科書にはこれらについての豊富な記述があるから、江戸時代の貨幣制度の変遷について、適切で簡潔なリード文を作成して小問を導けば、長文で無意味な会話文も必要でなくなる(経済学部の過去の入試問題で複数回出題済み)。

【ケーススタディ 6】は、教科書の国風文化の説明では、仮名文字による文学作品、末法思想、浄土教・阿弥陀信仰などが多くの図版とともに説明されているから、作品の一部や図版を提示し、国風文化として適切なものを選択させる事項選択形式の出題が考えられる。ダミーとしては、原文が漢文による作品や阿弥陀信仰でない図版などを提示すればよい。

【ケーススタディ 7】は、第 6 問全体が農地改革についての生徒の作成資料に基づく設問であるから、まず、寄生地主制の形成から変容、農地改革までの歴史的ストーリーを説

明するリード文を提示する。そのうえで資料の内容を再編成して、寄生地主制の特徴と時代背景、第一次世界大戦後の慢性的不況における農民運動や労働運動、女性解放運動、被差別部落民解放運動、アジア太平洋戦争と戦時下の経済統制、戦後の占領改革などを取り上げる。これによって、戦前の日本資本主義の特徴と戦後改革による変化という、日本史における重要な論点に関する大問となる(経済学部の過去の入試問題で複数回出題済み)。

## ② 世界史 B

### (a) 正誤問題の多くは単なる暗記問題

出題形式別にみると、W の問題も 4 回のテストのすべてで正誤問題が最多である。ただし、第 1 回 PTW が 64%、第 2 回 PTW が 56%、CTW では 86%であったのが、KTW では設問総数 34 問のうち 20 問、59%で、第 2 回 PTW 並みである。そのうち正文選択が 12 問(60%、設問総数の 35%)でもっとも多く、KTJ で 75%を占めていた正誤判断は 4 問(20%、設問総数の 12%)である。

正誤判断問題は 4 問すべてが組合せ形式であるが、正文選択問題の組合せ形式は、KTJ では 8 問中 7 問(88%)であったが、KTW では 1 問(8%)だけである。PTW と CTW でも組合せ形式は少数だったから、W では組合せ形式は重視されていないといえよう。誤文選択は 4 問(12%)で、PTW、CTW と同程度である。

事項選択・空欄補充は 11 問(設問総数の 32%)で、そのうち 9 問(82%)が組合せ形式である。正誤判断問題も選択肢が短く、長いものでも 40 字程度、短いものは 10 字程度であるから、実質的には事項選択・空欄補充問題に近く、史実や年代の暗記問題となっている。第 3 表が示すように、暗記力を問うだけの問題が 29 問で、設問総数の 85%を占めている。しかも、国・地域や時代の異なる 4 つの史実や年代の暗記を問う問題が多いのも特徴である。

### 【ケーススタディ 8】

第 1 問 A 問 2 下線部④の背景として、司馬遷の時には長年の戦乱に加えて、思想統制によって多くの記録が失われていたことも挙げられる。世界史上の思想統制について述べた文として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

下線部④は、司馬遷の『史記』についての概要をまとめた文章中にあり、「素材となる資料の収集は司馬遷が独自に行ったもので、収集の範囲にはおのずと限界があった」である。

- ① 始皇帝は、民間の書物を医薬・占い・農業関係のものも含めて焼き捨てるように命じた。
- ② エフェソス公会議で教皇の至上権が再確認され、禁書目録を定めて異端弾圧が強化された。
- ③ ナチス体制下では、ゲシュタポにより国民生活が厳しく統制され、言論の自由が奪われた。

④ 冷戦下のイギリスでは、共産主義者を排除する運動が、マッカーシーによって盛んになった。

【出題の妥当性】

①の秦の始皇帝の焚書は紀元前 3 世紀で、医薬等に関する書物が除外された。②の教皇の至上権が再確認……は 16 世紀のトリエント公会議である。③のナチス体制は 1930 年代で、ゲシュタポのみによって国民生活が統制されたように読める点は疑問であるが、誤りというほどではない。④のマッカーシーによる「赤狩り」は 1950 年からアメリカで始まった。「マッカーシーによって盛んになった」は日本語として不自然であるが、これも含めて誤文と解釈しよう。

紀元前 3 世紀の中国から 1950 年代の冷戦下でのアメリカの思想統制までの 4 つの史実に、何らかの関係性や共通性があるはずもない。3 つの誤文の誤りの作り方も上述のように安易である。これらの思想・国民生活の強権による統制にはもちろん背景があるし、その統制がもたらした影響について知ることは重要である。これらこそが史実の知識に基づく思考力等を問うべきことである。時代も地域もまったく異なる断片的知識の暗記力のみを問う出題者の意図は理解不能である。

【ケーススタディ 9】

第 3 問 B 問 4 下線部⑥に関連して、世界史における宗教と教育・政治との関係について述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

下線部⑥は、中間 B の冒頭の日本人ジャーナリストの 19 世紀以降のロシアにおける革命運動についての論評の引用文中にあり、「その手先に僧侶を使い、学校はなるべく立てずに、能う限り寺を建てた。村里の児童を訓えるのには小学教師によらず、僧官によって百姓の子供に祈祷を教えた」である。

- ① フランスでは、20 世紀初めに政教分離法が成立した。
- ② 中世ヨーロッパの学問では、神学が重視された。
- ③ イスラーム世界では、マドラサが重要な教育機関となった。
- ④ 隋や唐では、主に仏教の理解を問う科挙が整備された。

【出題の妥当性】

誤文はもちろん④で、仏教ではなく儒教である。この設問も時代も地域も異なる史実の単なる暗記問題で、誤りの作り方も安易である。引用文はロシアにおける革命運動についてで、問 5 がナロードニキ、問 6 が農奴解放の設問なのだから、遅れた資本主義国で始まったロシア革命の背景やその影響などを論点とすれば、史実の理解に基づく思考力等を問う問題を作成することができるのである。この中間で 4 つの選択肢の史実の暗記を問う出題の意図は理解不能である。

この 2 つの例のように、断片的史実やその年代の暗記を問う問題が 10 問、設問総数の 30% 近くを占めているのである。CTW の 75% に比べれば少なくなっているのであるが、第 1 回 PTW では暗記問題は 53% で、断片的史実の暗記を問う問題はごくわずかであった。入試問題を思考力等を評価するという方向に改革するという、共通テストの理念は空文化していると言わざるを得ない。

断片的史実の暗記問題をこれだけ多数出題する意図は、出題がいくつかの地域や時代に偏ると、受験生の学習範囲の違いや得手不得手によって得点差が大きくなり、公平性が阻害されるという配慮なのかもしれない。しかし、拙著でも指摘したように、教科書に記述のあるすべての時代や地域を出題するのは不可能であるし、共通テストを年に複数回実施して出題範囲を最大限に拡大したとしても、1 度出題された範囲は次には出題されないという予想が成り立つから、この意味での公平性は担保されない。むしろ、歴史の学習とは、史実の内容や時系列関係、因果関係などの理解より、断片的史実や年代の暗記であるというメッセージを発信するという弊害が大きいのである。

(b) 思考力・判断力を問うことを意図したと思われる設問の内実

単なる暗記問題ではなく、思考力を問うことを意図したと思われる設問も少数ながらあるが、その多くが、KTJ と同様に、資料やグラフを読解できれば正解に到達できることになっている。その例を 3 つ挙げて、設問内容を検討しよう。

【ケーススタディ 10】

第 2 問 A は、1750 年～1821 年の「イギリスにおける金貨鑄造量の推移を示した」グラフ 1 と、同期間の「イギリスにおける貨幣(イングランド銀行券)流通量の推移を示した」グラフ 2 を提示した問題である。

問 1 上のグラフ 1 を見て、金貨鑄造量が急増し、初めて 500 万ポンドに達する前に起こった出来事について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① イダルゴの蜂起を経て、メキシコがスペインから独立した。
- ② 茶法制定への抗議として、ボストン茶会事件が起こった。
- ③ ロシアとカージャール朝との間で、トルコマンチャーイ条約が結ばれた。
- ④ アレクサンドル 1 世の提唱によって、神聖同盟が結成された。

問 2 次のグラフ 2 は、1750 年から 1821 年にかけてのイギリスにおける紙幣(イングランド銀行券)流通量の推移を示したものである。このグラフ 2 とグラフ 1 を使って、金貨鑄造量が 10 年以上にわたって 100 万ポンドを下回った背景を考えると、下のような仮説を導き出すことができる。下の仮説中の空欄  と  に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

仮説：金貨鑄造量が 10 年以上にわたって 100 万ポンドを下回り続けたのは、イギリスの  に対する戦いのために  必要から、何らかの対策が採られたためであろう

- ① アーロシア      イー紙幣を大量に発行する
- ② アーロシア      イー紙幣の発行を抑制する
- ③ アーフランス    イー紙幣を大量に発行する

## ④ アーフランス イー紙幣の発行を抑制する

## 【出題の妥当性】

問 1 について、グラフ 1 を見ると、金貨鑄造量が初めて 500 万ポンドに達したのは 1776 年とわかる。②が 1773 年で、それ以外は 19 世紀前半の出来事である。これらの史実に何らかの関係性はないし、イギリスの金貨鑄造量の推移との関係性もない。したがって、グラフの読み取り以外は断片的史実の単なる年代暗記問題である。

問 2 については、「金貨鑄造量が 10 年以上にわたって 100 万ポンドを下回った」のは、グラフ 1 から 1799 年～1813 年とわかる。この時期にイギリスが関与した戦争はナポレオン戦争であるから、アは「フランス」が正解となる。また、グラフ 2 から、この時期にイングランド銀行券の流通量が急増していることがわかるから、イは「紙幣を大量に発行する」が正解となる。この設問もグラフの読み取り以外は史実と年代の暗記問題である。

2 つのグラフを提示して、思考力等を問う問題にしようという意図は評価できる。ただし、この設問内容では、上述のようにグラフ 1 から時期を特定し、その時期にイギリスが関与した戦争を想起し、グラフ 2 からこの時期に紙幣流通量が急増したことを読み取れば正解に到達できる。正解のために必要なのは、グラフの読解力と史実の年代の暗記力だけである。

グラフを読解したうえで、史実の理解に基づく分析力や思考力を問う正攻法の問題とは、この時期の金貨鑄造量の抑制とイングランド銀行券の流通量の急増の背景を問うことであろう。背景とは、ナポレオン戦争の巨額の戦費とその調達のための国債の発行、イングランド銀行の国債引き受けと金準備高の急減、1797 年のイングランド銀行の金兌換停止とその下でのイングランド銀行券の大量発行である。

ただし、これらの経緯について教科書に記述はないし、高校生はもちろん、大学の経済学部の学生にとっても難問であろう。金本位制における兌換銀行券の理論的理解と歴史的な変遷についての知識が必要だからである。このトピックで史実の知識に基づく思考力等を問う入試問題を出題するとしたら、例えば次のような問題が考えられる。

## 【修正案】

グラフ 1 とグラフ 2 から、金貨鑄造量が 10 年以上にわたって 100 万ポンドを下回った時期には、紙幣が大量に発行されたことがわかる。その背景の説明としてもっとも適切なものを、次の①～④の中から 1 つ選びなさい。

- ① フランスとの戦争の費用を賄うために政府が大量の国債を発行し、イングランド銀行がその国債を引き受けることで大量の紙幣が発行された。
- ② 産業革命によって経済が急速に成長したことにともない、貨幣の需要が急増して金貨が不足したた

めに、金本位制を停止し紙幣が大量に発行された。

- ③ 資本主義の発展にともなう恐慌も発生するようになったため、政府はイングランド銀行に紙幣を大量に発行させ、失業者の救済や景気対策の費用とした。
- ④ 産業革命によって機械制大工業による大量生産が行なわれるようになったが、綿花などの原材料の輸入が急増し、代金の海外送金のために紙幣の需要が急増した。

【ケーススタディ 11】

第 2 問 A は、第 4 問 C は、資料として「イギリス人植民地行政官マコーリーによる覚書」の 500 字以上の引用文と、600 字近くの先生と生徒の会話文が提示されている。

問 7 上の資料及び会話文中の空欄  語で書かれた文学作品の名 **あ・い** と、資料から読み取れる事柄 **W・X** の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

**あ** 『シャクンタラー』 **い** 『ルバイヤート』

**W** アラビア語は、インド人教育に用いるのに効果的だと考えている公共教育委員がいる。

**X** マコーリーが話をした東洋学者の中には、西洋の分遣の優位性を否定する者がいる。

問 8 上の資料及び会話文から読み取れる英語教育導入の動機 **う・え** と、インドにおけるイギリスの植民地政策の特徴 **Y・Z** の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

**う** ペルシア語とともに、イギリス統治以前の諸王朝で用いられていたため。

**え** 英語とインド諸語の両方を理解するインド人役人を育成するため。

**Y** 藩王国を存続させ、一部の地域では間接統治を行った。

**Z** ムスリムと仏教徒とを対立させるため、ベンガル分割令を発布した。

問 9 下線部⑥の時代のインドについて述べた文として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ(下線部⑥は「ムガル帝国」である)。

① ペルシア語を基に、タミル語が生まれた。

② シャー=ジャハーン時代の、タージ=マハルが建設された。

③ 影絵人形劇(影絵芝居)のワヤンが発達した。

④ ウルグ=ベクが、天文台を建設した。

【出題の妥当性】

問 7 の「文学作品」は、シャクンタラーがサンスクリット語で書かれた古代インドの戯曲、ルバイヤートはペルシア語で書かれた 4 行詩集である。また、会話文中に「古代インドで多くの文学作品が描かれた  語」という記述があるので、**あ** が正しいとわかる。「資料から読み取れる事柄」は、資料中に公共教育委員の「半数はアラビア語と  語を推しています」という記述があるので、**W** が正しいとわかる。つまり、「文学作品」は史実の暗記、「読み取れる事柄」は資料の読解を問う設問で、史実の理解や思考力を必要としない問題である。

問 8 の「英語教育導入の動機」は、**う** のイギリス統治以前のインドの諸王朝で英語が用いられていたとはありそうにないし、会話文の末尾で「英語も使えるインド人役人を必要としており」とあるから、**え** が正しいとわかる。「イギリスの植民地政策の特徴」は、反英的な民族運動の中心であるベン

ガル州を分裂させるために、ムスリムとヒンドゥー教徒を分断させようとしたのがベンガル分割令であるから、Z が正しいとわかる。この設問も史実の暗記と史料の読解を問うもので、思考力を必要とする問題ではない。

問 9 の選択肢①のタミル語は紀元前後の南インドのタミル人の言語で、ペルシア語とは無関係。②は正しい。③のワヤンはインドネシアのジャワ島。④のウルグ=ベクは中央アジアのティムール朝の人物。資料や会話文とも関係のない、断片的史実の暗記を問うだけの設問である。

1000 字を超える長文の資料および会話文の内容は無意味なものではなく、イギリスのインド統治の歴史的性格の一端を示している。しかし、入試問題としてこの設問に取り組む受験生のどれだけが、この長文を熟読し内容を理解しようとするだろうか。この 3 つの設問で受験生に要求しているのは、シャクンタラー、ベンガル分割令、タミル語、ワヤン、ウルグ=ベクという断片的知識と、資料と会話文中に選択肢の文に沿う記述を見つける能力でしかないのである。

イギリスのインド統治をテーマとするなら、インドの植民地化の経緯、イギリスの産業革命との関係、インド帝国成立後の統治体制、植民地支配に対抗する民族運動の高揚と弾圧、独立の達成の経緯など、現代のインドが抱える国内問題や周辺地域との問題を考えるための材料としての論点は多数ある(経済学部の過去の入試問題で出題済み)。そうした論点を出題することこそが、高大接続改革の理念なのではないか。

#### 【ケーススタディ 12】

第 1 問 B は、設問文が約 140 字、歴史家のマルク=ブロックの著書からの 800 字以上の引用文が提示された中間である。

問 4 上の文章中で、ブロックが、訪問した研究者に助言する際に、前提としたと思われる歴史上の出来事あ・いと、文書資料についてのブロックの説明 X~Z の組合せとして正しいものを、下の①~⑥のうちから一つ選べ。

あ 国民議会が、教会財産を没収(国有化)した。

い 総裁政府が共和制の成立を宣言し、国王が処刑された。

X~Z は省略。

問 5 上の文章中で、ブロックが言う「嫌われた体制」の特徴について述べた文として最も適切なものを、次の①~④のうちから一つ選べ。

- ① 産業資本家の社会的地位が高かった。
- ② 征服された先住民が、ヘイロータイとされた。
- ③ 強制裁培制度が実施されていた。
- ④ 貴族が、第二身分とされていた。

## 【出題の妥当性】

問 4 の「歴史上の出来事」は、い の共和制の成立が宣言されたのは 1792 年成立の国民公会で、総裁政府は 1795 年の成立であるから、フランス革命の基本的史実を理解していれば、ブロックの文章を読まなくてもあ が正しいと判断できる。X～Z については、ブロックの文章も選択肢の文も、読み進めるのが苦痛になるほど冗長でまわりくどいので、一般的な受験生が速読して内容を読解するのはかなり難しいだろう。ただし、全文を理解しなくても、受験技術として、両方の文章を対比して共通する語句を見つける能力があれば、正解に到達することができる。この設問も史実の暗記と史料の読解を問うもので、思考力を必要とする問題ではない。

問 5 について、受験生は、まず「嫌われた体制」を長文の中から見つけ出さなければならない。この語句の特徴を問う設問なのだから、ブロックの文章中の「嫌われた体制」に下線を引くのが普通である。出題者は、長文の中からこの語句を発見する能力も、大学入試には必要と考えたのだろうか。ただでさえ問題分量が多いのだから、設問文は、下線部の「嫌われた体制」の特徴について述べた文……として、選択肢の正誤の判断に集中させるべきである。

選択肢①は、産業革命の進展が前提となるが、フランスの産業革命は 19 世紀前半に始まる。②の「ヘイロータイ」は、紀元前スパルタの被征服民の奴隷。③の「強制栽培制度」は、19 世紀のオランダのジャワ支配の一環。④はフランスのアンシャン＝レジームにおける身分制度で正しい。「嫌われた体制」とは何かを考えなくても正解に到達できる断片的史実の暗記を問う設問である。

フランス革命をテーマにするなら、革命の経緯はもちろん、アメリカ独立革命との関係、アメリカの独立宣言・合衆国憲法とフランスの人権宣言・1791 年憲法の意義と限界およびそれらの比較、ラテンアメリカ諸国の独立運動など 2 つの革命の世界への広がりなど、いわば王道の論点が多数ある(経済学部過去の入試問題で複数回出題済み)。これらの論点を取り上げるだけでなく、例えば、現代のブラック・ライブズ・マターやジェンダー・イコリティ問題に関連付けた出題も可能である。これこそが高大接続改革の理念の具体化なのではないか。

以上の【ケーススタディ 10】～【ケーススタディ 12】の 3 つの例で明らかのように、思考力等を問うことを意図したと思われる設問の内実は、資料やグラフの読解力と断片的史実の暗記を問う問題でしかない。

## (5) 歴史における思考力・判断力とは？

拙著では、高大接続改革の理念を具体化する歴史科目の入試問題、すなわち歴史に関する思考力・判断力(論述問題ではプラス表現力)を評価できる入試問題とはどのようなものであるべきかについて、「史実の正確な理解を基礎として、幅広い視野から歴史的事象の時系列関係や因果関係、相互関係などを論理的に考え、判断させるもの」(拙著 139 ページ)と規定した。

これまでの検討から明らかなように、共通テストでは J・W とともに、この規定にあてはまらない単なる暗記問題や断片的史実の知識を問う設問が圧倒的多数であった。例外的に、並べ替え形式の問題の中に、この規定をクリアする可能性のある設問が少数ではあるが存在する。残念ながら、いくつかの不適切な部分があるため、思考力等を評価できる良問とは言い難い設問となっている。

## ① 日本史 B

### 【ケーススタディ 13】

第 1 問 B 問 5 下線部④に関連して、円が貨幣単位となった後の明治期に関して述べた次の文 I～III について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ(選択肢は I～III の配列の組合せである)。

- I 銀との交換を保証する紙幣が発行され、銀本位制が確立した。
- II 対外戦争の賠償金により、欧米と同じく、金本位制が確立した。
- III 戦費調達のため、多額の不換紙幣が発行された。

### 【出題の妥当性と修正案】

I の銀本位制の確立は、1885 年の日本銀行による銀兌換の銀行券の発行開始を指すと思われる。出題者の意図がそうであるなら「紙幣」ではなく「日本銀行券」とすべきである。II は日清戦争の賠償金を準備金とする金本位制の採用で、1897 年の貨幣法の制定による。III については、出題者の意図は、1877 年の西南戦争の戦費のための不換紙幣の増発であろう。ただし、単に「戦費調達」では、時期の特定が曖昧となる。

日本も参戦した第一次世界大戦中の 1917 年に金本位制が停止されているし、1929 年の金解禁後、1931 年に再度金本位制が停止されている。したがって、第一次世界大戦または 1931 年の満州事変以降の戦費調達のための不換紙幣発行を排除できないのである。この設問の正答率が 57.3%と KTJ の全問中で 2 番目に低いのは、I と III の曖昧さのためかもしれない。

金本位制の確立過程は、明治時代の日本経済の近代化において重要な論点であるから、出題すること自体は有意義である。この過程の歴史的ストーリーを明確化するためには、国立銀行条例、大隈重信の紙幣整理、松方財政とデフレ、日清戦争、貨幣法制定などの事項とともに、年表挿入問題にするか、誤文選択問題にすれば、史実の理解に基づく思考力等を問う出題が可能になる(経済学部の過去の入試問題で複数回出題済み)。

### 【ケーススタディ 14】

第 4 問の間 2 武家諸法度に関して述べた次の文 I～III について、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ(選択肢は I～III の配列の組合せである。設問文は 4 行であるが、前半の 2 行余りは解答のためには無関係なので省略した)。

- I 幕府は、大船の建造禁止を解き、武家諸法度を書き改めた。
- II 幕府は、武家諸法度の第 1 条の冒頭を、「文武弓馬の道」から「文武忠孝のを励まし」に書き改めた。

Ⅲ 幕府は、武家諸法度で、大名に参勤交代を義務づけた。

#### 【出題の妥当性と修正案】

I は 1853 年でペリーの艦隊の来航への対応の一環、II は 1683 年で 5 代将軍綱吉の文治主義政策、III は 1635 年で幕府の大名支配策である。III→II→I の順に、幕藩体制の整備、武力による統治から儒教倫理に基づく文治主義的統治への転換、幕末期の外国の脅威への対応という、江戸時代の政治情勢の時系列的変化を理解していれば正解に到達できる。その意味では良問といえる。

ただし、第 4 問の設問文は、近世社会における儀式や儀礼に関する 4 つの小問に答えよという趣旨である。問 1 の江戸城本丸御殿の殿席についての設問は儀式や儀礼と言えようが、武家諸法度を儀式や儀礼とは言えない。そのためであろうが、問 2 の設問文の前半で、「江戸城本丸御殿は儀式や儀礼を行う舞台である。なかでも重要なのは、武家諸法度の発布である」と、武家諸法度の出題を理由づけているが、それでも不自然で無理がある。

また、問 3 は【ケーススタディ 4】で指摘したように、設問文で「江戸幕府の様々な儀礼は政治行為であり、……対外的な儀礼も含まれている」として、江戸時代の対外関係について出題しているが、選択肢の②のオランダ風説書と④の松前奉行の設置は儀礼とは言えない。さらに、問 4 の設問文では「近代以降の祝日や祭日は、国家の行う儀式や儀礼と深く関わっている。しかし、江戸時代の休日はそれとは大きく違っていた」として、枝問(1)と(2)を出題している。(1)は江戸時代の休日であるが、(2)では明治天皇即位後の天長節についての設問で、大問のテーマと齟齬がある。解答とは無関係で出題の意味づけのためだけの 2～3 行の設問文が小問ごとにあるのは、大問のテーマと小問の内容に齟齬・矛盾があるからである。

この難点を解消するためには、例えば、問 4 を削除し、第 4 問の設問文を「江戸幕府の国内統治政策や対外政策についての以下の問 1～3 に答えなさい」とする。そのうえで、問 2 は上述の江戸時代の政治情勢の時系列的変化の理解を問えるような誤文選択問題とし、問 3 は、【ケーススタディ 4】で指摘したような対外関係の背景や変化を問えるような誤文選択問題とする。もちろん、各問の 4 つの選択肢は 100 字程度の長さで、史実の理解に基づく思考力等を必要とする文にする。こうすれば、史実の理解に基づく思考力等を問う出題が可能になるのである(経済学部過去の入試問題で複数回出題済み)。

第 3 問の問 3 も並べ替え問題で、並べ替えの対象は、室町時代の一揆のうちの、I 山城の国一揆(1485 年)、II 加賀の一向一揆(1488 年)、III 正長の徳政一揆(1428 年)である。教科書の記述からは、これら 3 つの一揆に何らかの時系列関係は読み取れない。これらの一揆は、室町幕府の弱体化から戦国時代へという時代の変化と関係しているのだから、それぞれの背景と結び付ける設問にすれば、史実の理解に基づく思考力等を問う出題が可能になる。

## ② 世界史 B

### 【ケーススタディ 15】

第 4 問 B 上野動物園を訪れた生徒 2 人が、パンダの話から日中共同声明をめぐる歴史について話す、400 字程度の会話文が提示されている。

問 4 次の資料 X～Z は、中華人民共和国と、、 及び日本との間の条約・共同声明の文  
言の一部である。資料 X～Z を参考にしながら、会話文中及び資料中の空欄 ,  に入  
れる国名の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

X の題名は「中華人民共和国と  との共同声明」で、1 行目が「 のリチャード＝ニ  
クソン大統領は……」の 270 字ほどの文章である。

Y の題名は「中華人民共和国と  との条約」で、両国間の「友好と協力を強化し、日本帝  
国主義の再起、……極東と世界の恒久平和と普遍的安全を強固にしたいと念願し……」を含む 200  
字ほどの文章である。

Z の題名は「中華人民共和国と日本との共同声明」で、120 字ほどの文章である。

- |   |           |       |
|---|-----------|-------|
| ① | イーアメリカ合衆国 | ウーソ連  |
| ② | イーアメリカ合衆国 | ウーインド |
| ③ | イーフランス    | ウーソ連  |
| ④ | イーフランス    | ウーインド |

問 5 上の資料 X～Z が年代の古いものから順に正しく配列されているものを、次の①～⑥のうちから  
一つ選べ(選択肢は、X～Z のすべての配列 6 組である)。

#### 【出題の妥当性と修正案】

問 4 の  は、ニクソン大統領とあるからアメリカ合衆国である。 は、会話文中に  
日本と 1956 年の共同宣言で国交回復を宣言したという趣旨があり、Y の文章中に「極東」とあるか  
らインドは排除され、ソ連となる。難易度はきわめて低く、正答率 98.1%は全問中でもっとも高い  
く、選抜機能はないに等しい。

X は、1972 年 2 月にニクソン大統領が訪中して発表された米中共同声明で、中ソ関係の悪化を背  
景として、アメリカのベトナム戦争からの出口戦略の一環である。Y は、1949 年 10 月の中華人民共  
和国の成立後、1950 年 2 月にモスクワで締結された中ソ友好同盟相互援助条約で、米ソ冷戦の東ア  
ジアへの拡大を示す条約である。Z の日中共同声明は、米中の接近を受けて、1972 年 9 月に田中角  
栄首相が訪中し、日中の国交が正常化された声明である。

3 つの史料は、冷戦のアジアへの拡大、中ソ対立、ベトナム戦争下での米中の接近と日本の追従な  
ど、米ソ冷戦の開始から 1970 年代初めまでの国際関係における重要な史料である。したがって、こ  
れらの史料を出題することはきわめて有意義である。ただし、上述のように、このままでは入試問題  
としての意味は希薄である。

選抜機能が有効になるように難易度を上げるための修正案を提示しよう。3 つの史料の題名と X の  
冒頭のニクソン大統領を含む文は削除し、Z の引用文は、日中共同声明の「復交 3 原則」を含む部分  
として、「日本」を空欄とする。アメリカ、ソ連、日本とダミーの国名を選択肢とする事項選択問題  
とすれば、難易度は高くなる。組合せ問題とするなら、この 3 カ国の組合せを選択肢とする。

問 5 は、冷戦開始から 1970 年代初めまでの国際関係の時系列変化や相互関係の理解を必要とする  
良問と言える。しかし、3 つの史料の並べ替えだけでは、この期間の国際関係のストーリー性が不充  
分である。そこで、トルーマン・ドクトリン、朝鮮戦争、北爆開始、ベトナム和平協定などの事項と  
各事項の間に空欄を設けた年表を提示し、3 つの史料を空欄に挿入させる年表挿入問題にするのが適

切である。このように修正すれば、問 4～問 6 の 3 つの設問で上述の国際関係の理解を問う良問となる(経済学部の過去の入試問題で複数回出題済み)。

### 【ケーススタディ 16】

第 5 問 B 韓国を訪れた生徒とガイドとの 750 字程度の会話文が提示されている。

問 5 上の会話文中の空欄  について述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 冠謙之によって、教団が作られた。
- ② 王守仁によって批判された。
- ③ 義浄らが持ち帰った経典が、翻訳された。
- ④ 王重陽によって、革新が唱えられた。

問 6 下線部④について述べた次の文 う～おが、年代の古いものから順に正しく配列されているものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ(下線部④は「19 世紀の朝鮮で起こった出来事の中には、干支を用いた呼び方をするものがほかにもありますね」で、選択肢は う～おの配列の組合せである)。

- う 壬午の年に、軍隊による反乱が起こった。
- え 甲申の年に、急進改革派がクーデタを起こした。
- お 甲午の年に、東学による農民戦争が起こった。

### 【出題の妥当性と修正案】

問 5 の  を特定するレファレンスは、「衛正斥邪」思想の、「14 世紀末の建国以来、朝鮮が重んじた  を正しい教えとし、欧米列強が信仰するキリスト教を邪教と呼んだわけです」である。単なる空欄補充ではなく、正解のためには、 を特定したうえで、選択肢の正誤を判断するという 2 つのハードルを越えなければならない設問である。

4 つの選択肢の固有名詞の 4 人はいずれも中国人である。①の冠謙之は 5 世紀に道教の教団を作った。②の王守仁は朱子学を批判し陽明学を開いた。③の義浄はインドから仏教の経典を持ち帰った。④の王重陽は道教を革新し全真教を開いた。これら 4 つの断片的史実を知っていたとしても、「衛正斥邪」という語句は教科書にはないから、李氏朝鮮が儒教・朱子学を重視したことの知識がないと、正答するのは困難である。

難易度はきわめて高く、正答率は 47.6%と KTW の全問中でもっとも低い。「邪」がキリスト教とされているから、「正」は仏教と判断し③を解答した受験生が多かったのではないか。実際、朝鮮では仏教も尊重されていたのだから。せめて、 の事項選択で選択肢を提示し、そのうえでこの設問を出題するか、この 2 つの組合せ問題にするべきだっただろう。

問 6 の並べ替え問題について、この 3 つの史実は、日清戦争にいたる朝鮮をめぐる日中間のパワーゲームという歴史的ストーリーの構成要素であるから、出題は有意義である。ただし、「下線部④について述べた」という設問文によって、この 3 つの史実の関係性は、名称に干支が含まれた出来事という共通性とされてしまっている。出題者がこの歴史的ストーリーの理解を問うことにあったのなら、この出題の仕方はお粗末というしかない。

大院君の建てた石碑を題材とする第 5 問 B で問うべき歴史的ストーリーは、19 世紀後半の朝鮮に

対する列強と日本の圧力、朝鮮の宗主国を自任する清の対応、これらの外圧に対する朝鮮国内の政治情勢である。このストーリーの構成要素としては、江華島事件、日朝修好条規、壬午軍乱、甲申政変、天津条約、甲午農民戦争、日清戦争などである。さらには、ロシアの南下政策に対する日本とイギリス、アメリカのパワーゲームとして、日英同盟、日露戦争、桂・タフト協定、3次にわたる日韓協約、ハーグ密使事件から日本の韓国併合までストーリーを拡げることも有意義である。

このような朝鮮半島をめぐる国際関係・パワーゲームのストーリーを、正誤問題や並べ替え、年表挿入問題として出題すれば、この中間 B は史実の理解に基づく思考力等を問う問題とすることができるのである(経済学部の過去の入試問題で複数回出題済み)。

#### (6) 入試問題のあるべき姿を具体化するために

以上のように、KTJ では、(a)受験生の学力を正當に評価できない正誤問題の組合せ形式が多用されていること、(b)正誤問題の選択肢の文が短すぎるために単なる暗記問題となっている設問がほとんどであること、(c)暗記問題以外では史実の知識や理解が不要で、常識的な読解力があれば正解できる問題が多数を占めていた。

第 1 回 PTJ は、悪問や出題ミス、出題に疑問の残る問題が続出していたが、思考力等を評価する問題を作成しようとする出題者グループの意欲は感じられた。第 2 回 PTJ では、思考力等を問う意図と良問となるアイデアを感じる設問もあったが、問題の推敲と第 3 者によるチェック不足なのか、その意図を現実化するのに失敗したものが多かった。また、暗記問題が増加し、暗記することが無意味な事柄の暗記を要求するような設問もみられた。

これに対して、KTJ は思考力を読解力と誤解したような出題以外は、単純な暗記問題が多数を占め、センター試験に近いものとなっている。したがって、KTJ は入試問題として思考力等を評価することに成功していない。

KTW では、(a) 正誤問題の多くは選択肢の文が短いために、事項選択・空欄補充問題に近く、史実や年代の単なる暗記問題となっていた。さらに、国・地域や時代の異なる史実や年代を 1 つの設問で問う問題、すなわち断片的史実の暗記を問う問題が多かった。(b) 思考力・判断力を問うことを意図したと思われる設問も、KTJ と同様に、その多くが資料やグラフを読解できれば正解に到達できる問題であった。思考力等を必要とする設問は、第 1 回と第 2 回の PTW では少数ながら出題されていたが、KTW では CTW と同様に皆無である。したがって、KTW も入試問題として思考力等を評価することに成功していない。

ただし、(5)で述べたように、J・W とともに良問となる可能性やアイデアのある設問が、少数ながら出題されている。ケーススタディの【出題の妥当性と修正案】で述べたような難点を改善し、修正案で示したような問題を作成すれば、高大接続改革の理念の理念を入

試問題として具体化すること、すなわち、「史実の正確な理解を基礎として、幅広い視野から歴史的事象の時系列関係や因果関係、相互関係などを論理的に考え、判断させる」ことができる入試問題となるのである。

そして、これらの修正案は、近代・現代の日本と世界の歴史を理解し、現代社会を読み解き、あるべき未来を考える問題意識を育むことにつながる学習、すなわち「歴史総合」科目の理念を入試問題に具体化することにもなるであろう。我田引水的であるが、そのような入試問題の作り方を紹介したのが、拙著『入試問題の作り方―思考力・判断力・表現力を評価するために』なのである。本書の「はじめに」でも紹介した、経済学部の歴史科目の入試問題に対する予備校の評価を引用しておく。

#### 経済学部の歴史科目の入試問題全体に対するコメントの例

「『大学入試のあるべき形』の具体的な姿をみせてくれる珠玉の問題の数々。……かつて『未来は歴史の応用問題』を掲げた慶應経済らしく、……昨今の政治情勢・社会情勢及び経済政策のあり方に、大学入試といえども看過せず、警鐘を乱打している歴史への洞察力も学び取りたい。」(駿台、2013年度日本史)

「出題内容を概観しただけでも、現在、何が問題になっているのかが把握できる良問揃いである。……受験勉強といえども、現在を理解するために不可欠な存在として、歴史を勉強するということの大切さを改めて確認させられるものである」(駿台、2014年度日本史)

「早慶入試に多い難問奇問がほとんどないという意味では『易しい』が、史料や地図、統計グラフから歴史的な意味を読み解き、論じなければならないという意味では極めて『難しい』。『暗記型』ではなく『思考型』の入試問題であり、むしろ国公立大学の2次試験に近い。瑣末な知識の詰め込み能力ではなく、思考力や分析力、表現力を持つ学生を集めたいという経済学部の方針はすでに明確である。」(駿台、2013年度世界史)

#### 経済学部の受験対策としてのコメントの例

「現在の時点の問題を歴史的にとらえる出題が本学部の特徴でもあるので、時事問題についても興味関心を持ち、日頃から新聞やニュースに触れ、その『定義・意義・問題点』を考えて整理する習慣をつけることも有効である」(駿台、2007年度日本史)

「教科書レベルの基本事項を確認し、その上で経緯や歴史的背景に踏み込んだ学習に取り組むことが必要である。」(駿台、2007年度世界史)

「入試の範囲に閉じこもらず、平素から、社会一般に広く関心を向けつつ『生きた日本史学習』を心掛けたい。」(河合塾、2007年度日本史)

「日頃から現代社会の諸問題に問題関心を持っておきたい。単なる暗記でなく、理解を重視した学習をすすめておきたい。」(河合塾、2007年度世界史)